

ストーリー付きピンチヒロイン3DCG集

# 神代の戦士 3



## 体験版

R-18G

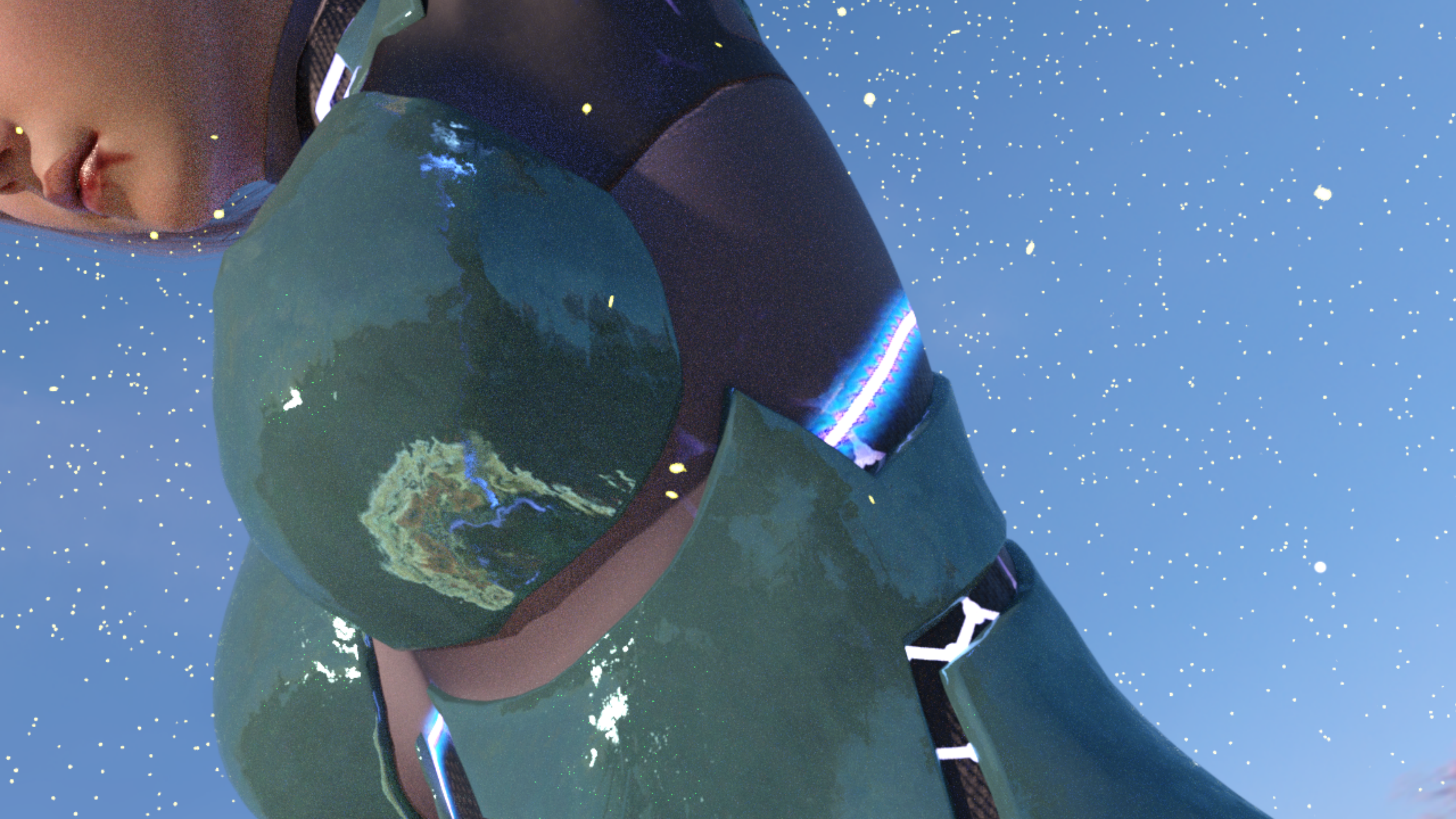
ざこきやら堂



# 三章



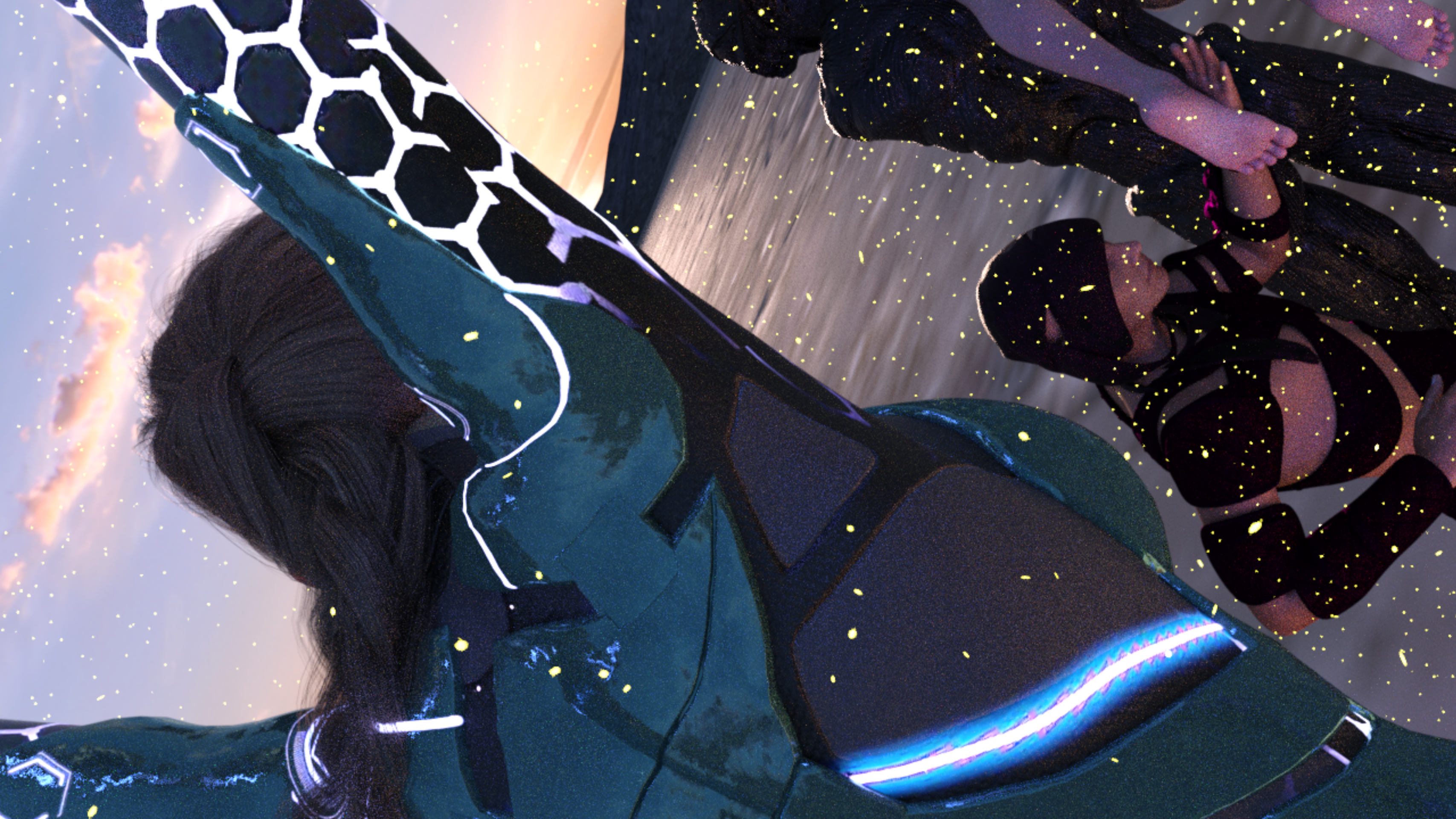




「…はあ……ふう………」

「やっと、静かになったな。神代の戦士様でも、脱出は難しいだろ？」





「お嬢様、いい脚しているねえ」  
(多少の無理では……抜け出せない……)





「…………んっ……………」

「あんたは、いいとばかりだったな。お嬢さんの”協力”をえるために、聖騎士とあんた達の名前を利用させてもらったぜ」





「おわびに、あとで、ゆっくり可愛がってやる、ひひ。そら、連れていけ」  
(多少の無理では……………)





(…よし、体力・魔力……回復したわ……少しは…)

.....

.....





「… あ……………そうか……………気を失ってた……………」

そして緑の戦士は……………

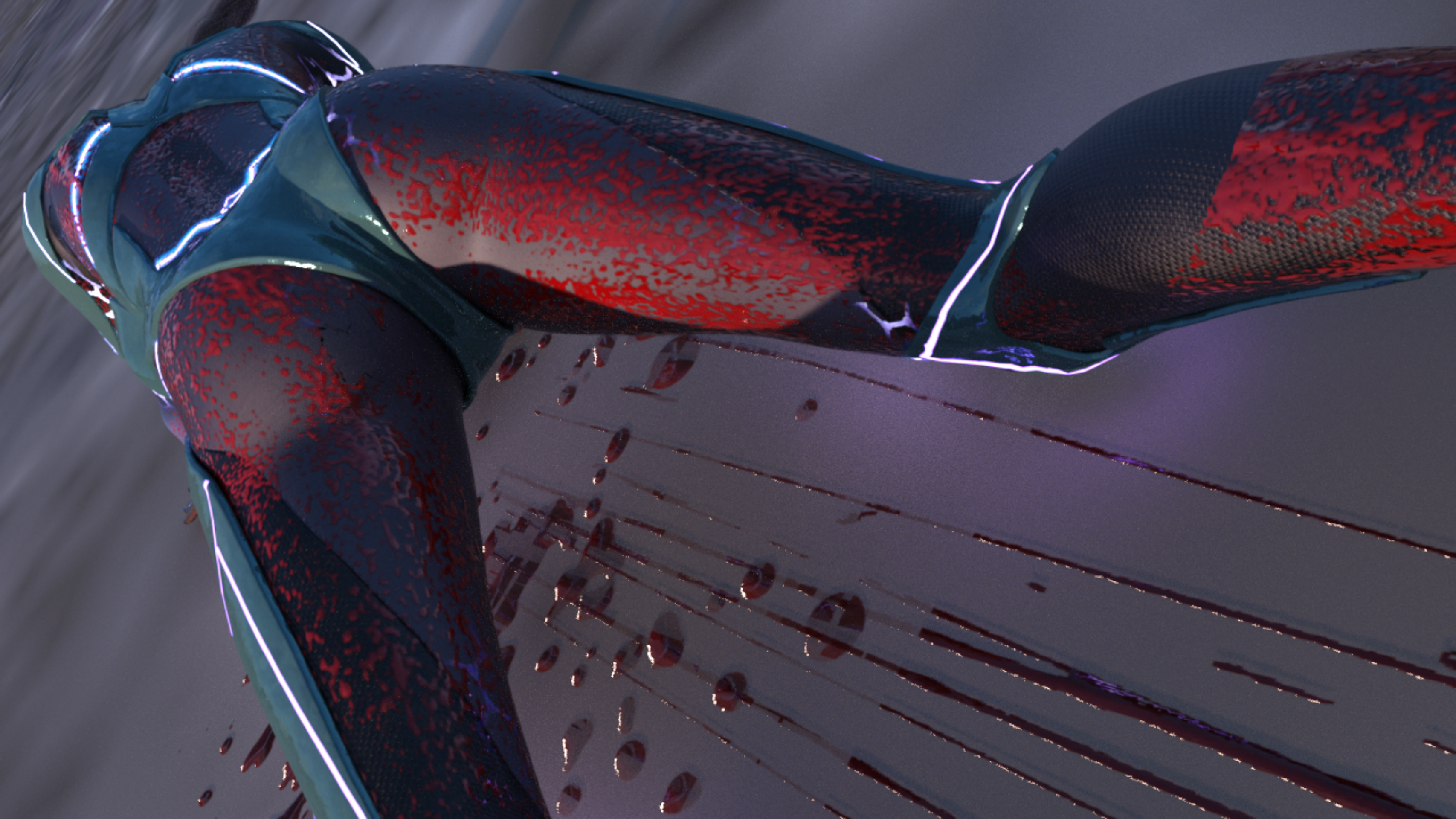




「……そんなに…経ってないわよね……っ…ごほっごほっ！」

装置を破壊し、脱出に成功した

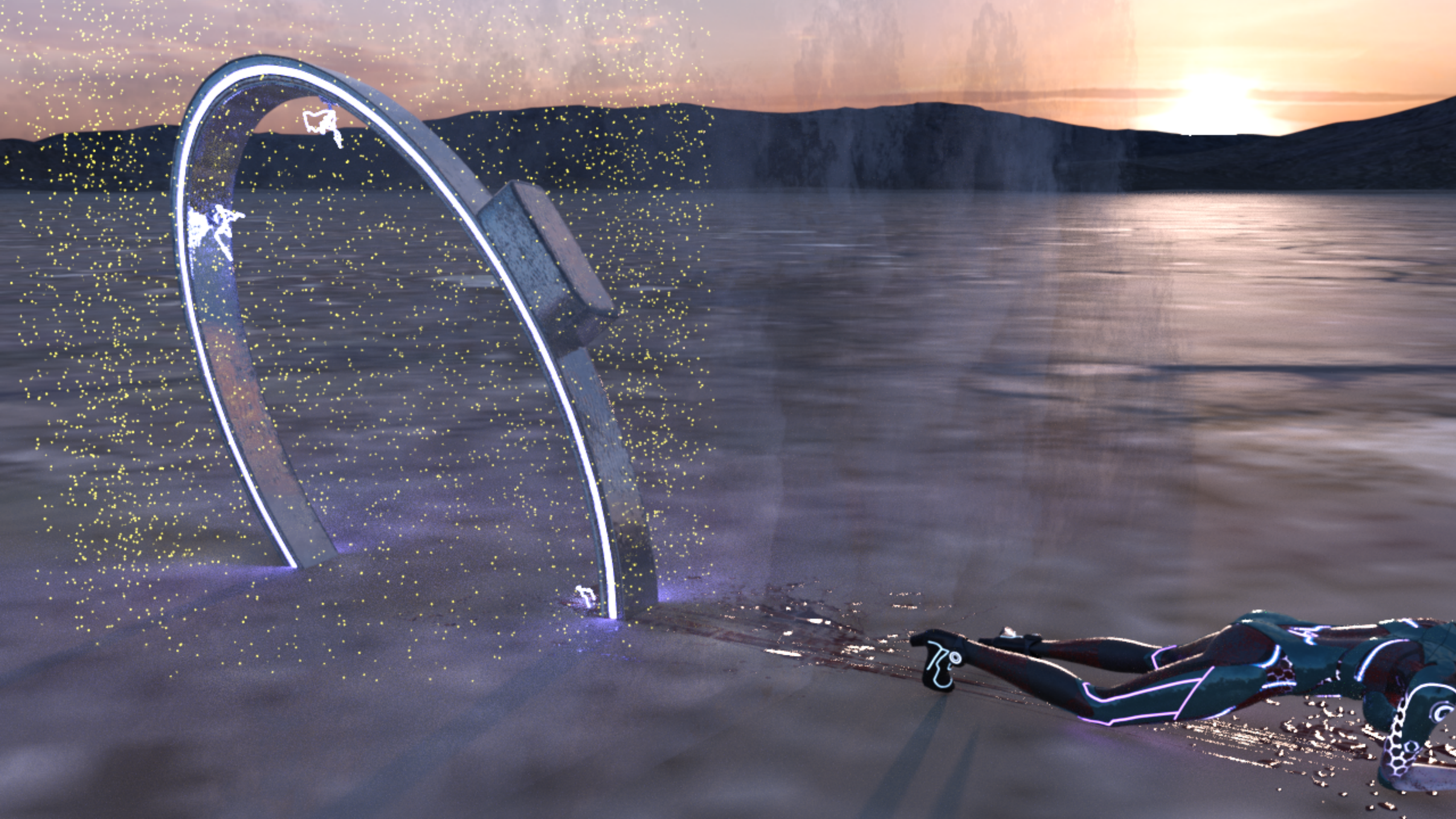




「……はあ…はあ……あの娘のところに……いかなきゃね……」

古代のアーティファクトは、改造されていた





「……あれ………これしか……移動してないの？ …まあいいわ…」

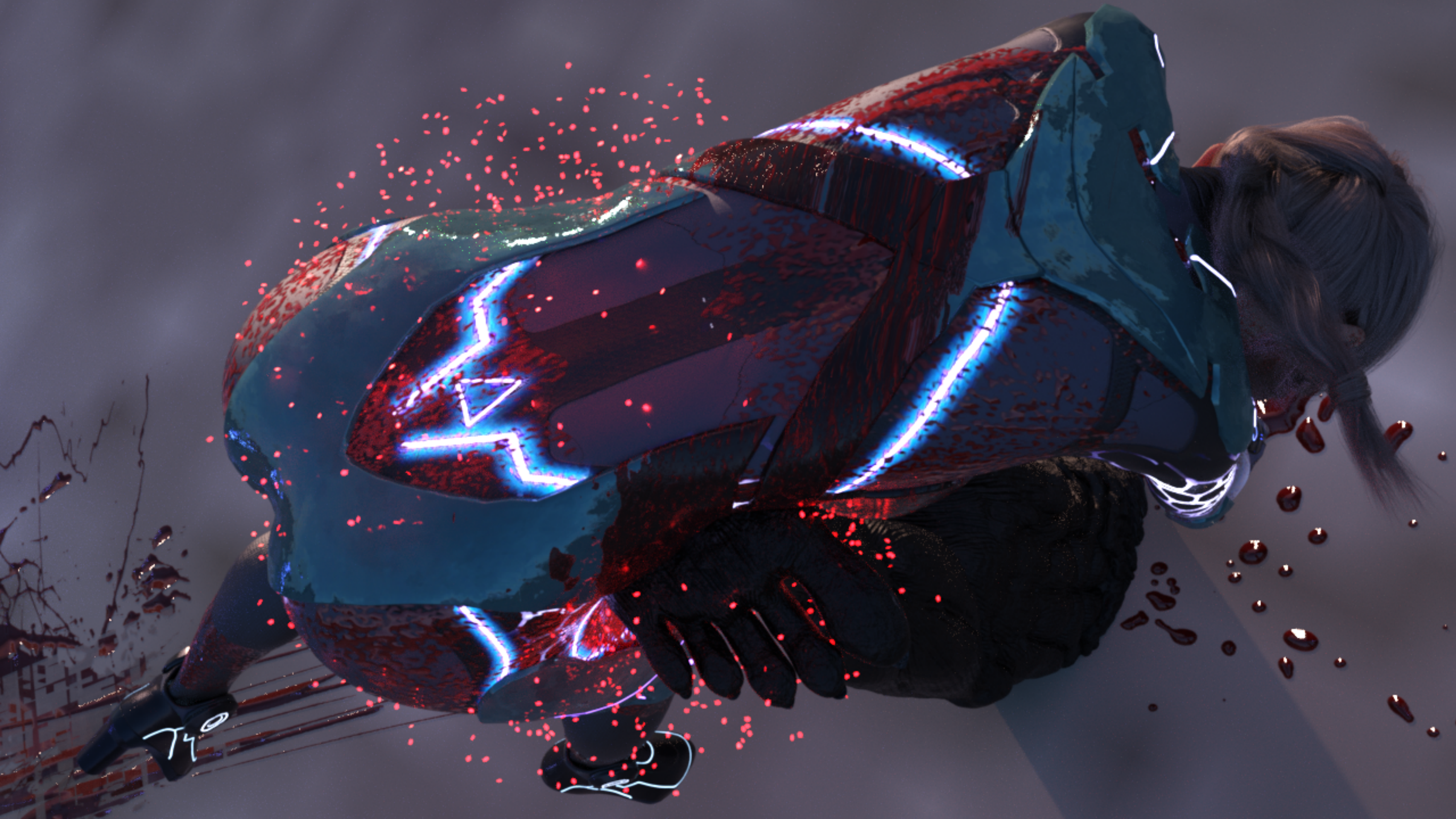
電撃魔法は、鎧をすり抜け、人体を直接痛めつけるように





「……ごほっ！ ……はぁ…たぶん…もうすぐ…」  
そして、血が染まっているのみだった、緑の鎧が…





「！！？ ……………あうっ！！！」

火花を散らせる





「がっ！！ ……ぐっ！！」

鎧が護っていても、弱り切った身体は反応でない





「……う…………はあ……はあ……うああ！！」

緑の戦士は、幾度も宙に浮かされ、打撃を受けていた  
使い魔達は命令されていた





(……ああ……)

なるべく長い時間をかけて…





(……視られている……)

逃亡者の鎧を徹底的に破壊をしろと……………

……………

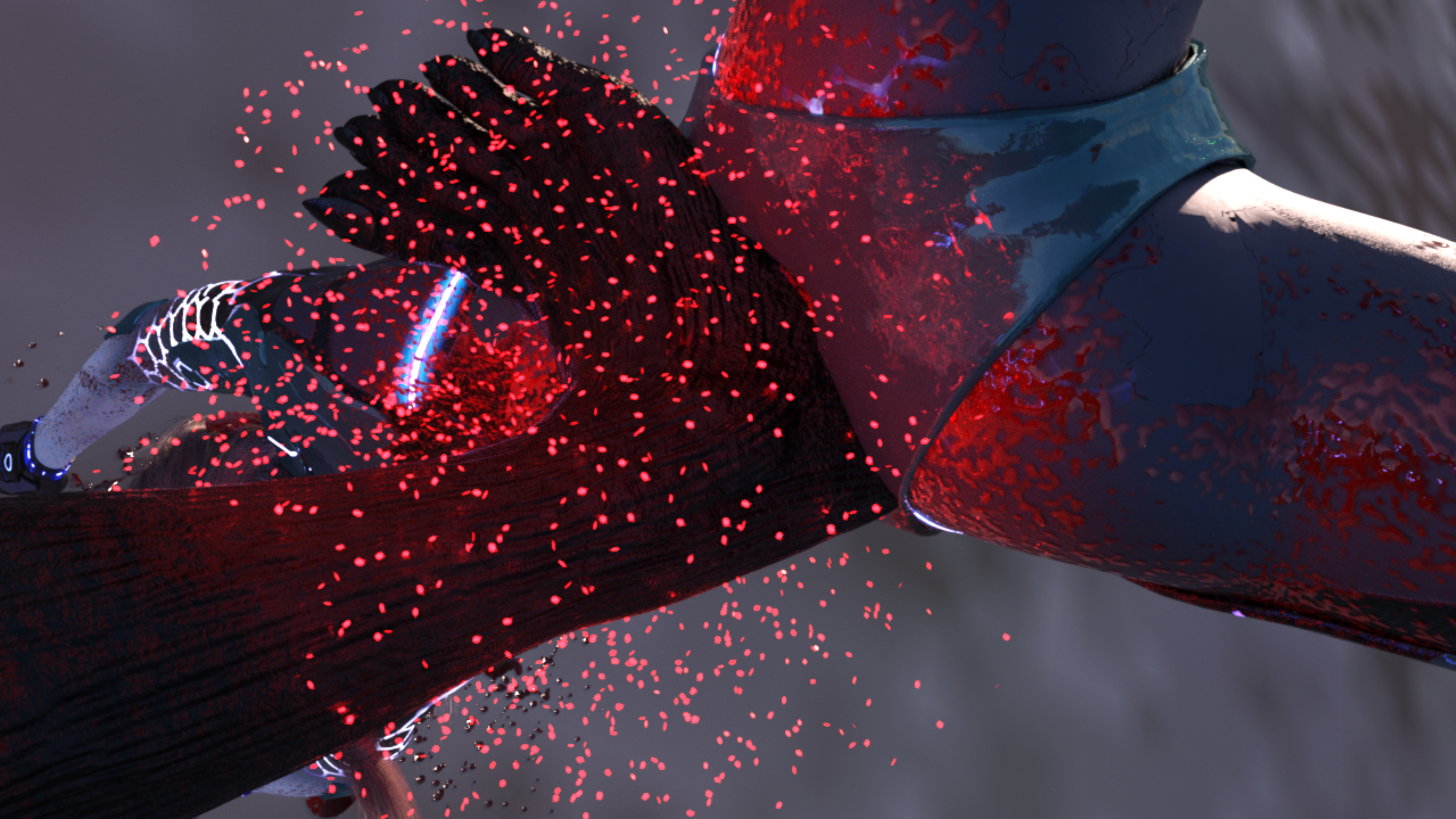




「あぐっ！！　がはっ！！　……………っ……………」

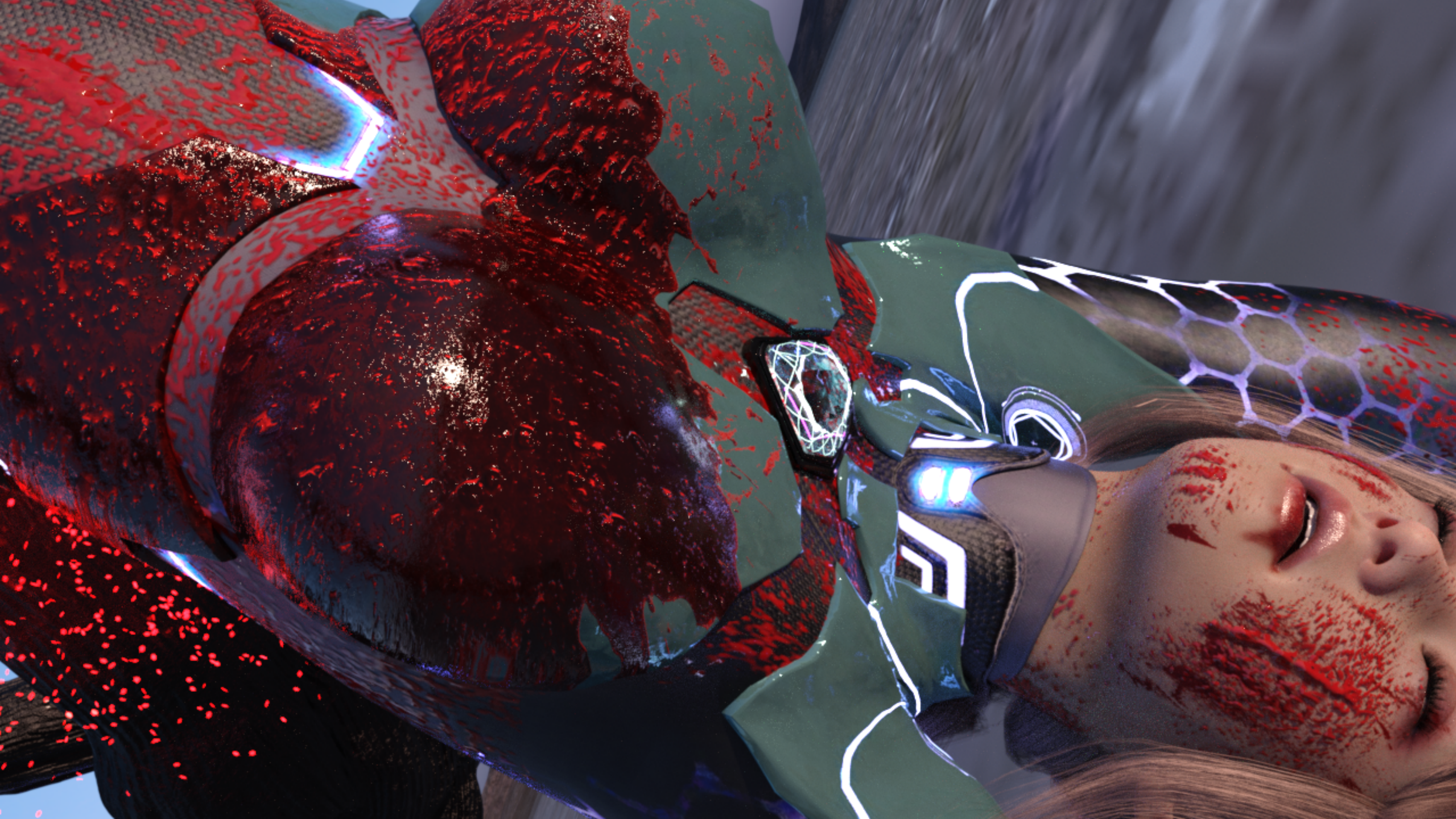
緑の戦士は、遠視の魔法で、大勢の見世物にされていた





「きゃああああー！！」  
アーティファクトから抜け出す時に…





「……あっ…………っ……………」

電撃で肌が引き裂かれ、血を流して苦しんでいた時から…





「…………っ…………っ…………」

強い打撃に、まともに反応ができなくなっている、今も…  
(……ああ……)





(……計画通り…かな?)

傷つき、苦しんでいる姿を、悦ぶ悪党達

三章 完



# 四章

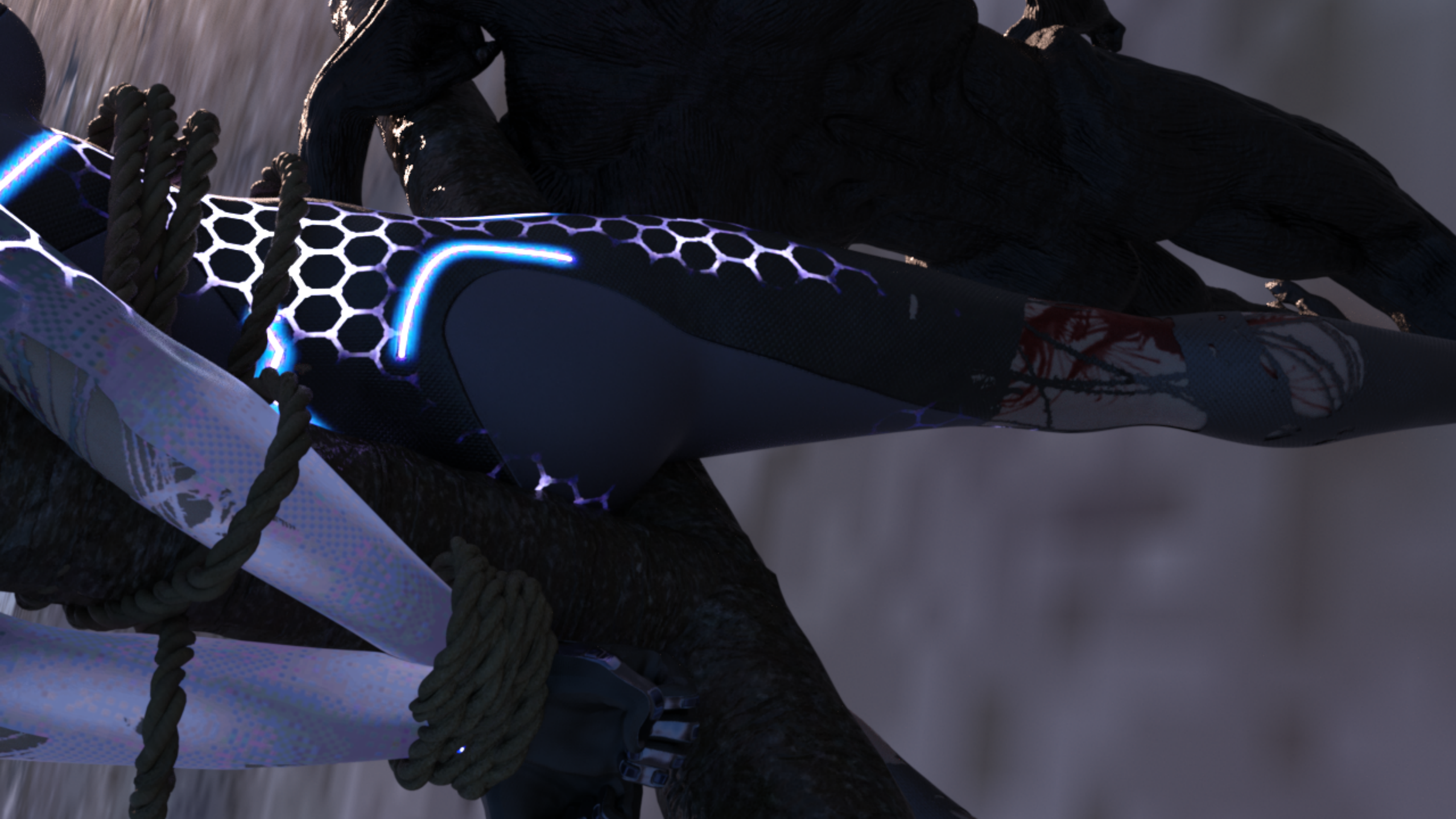






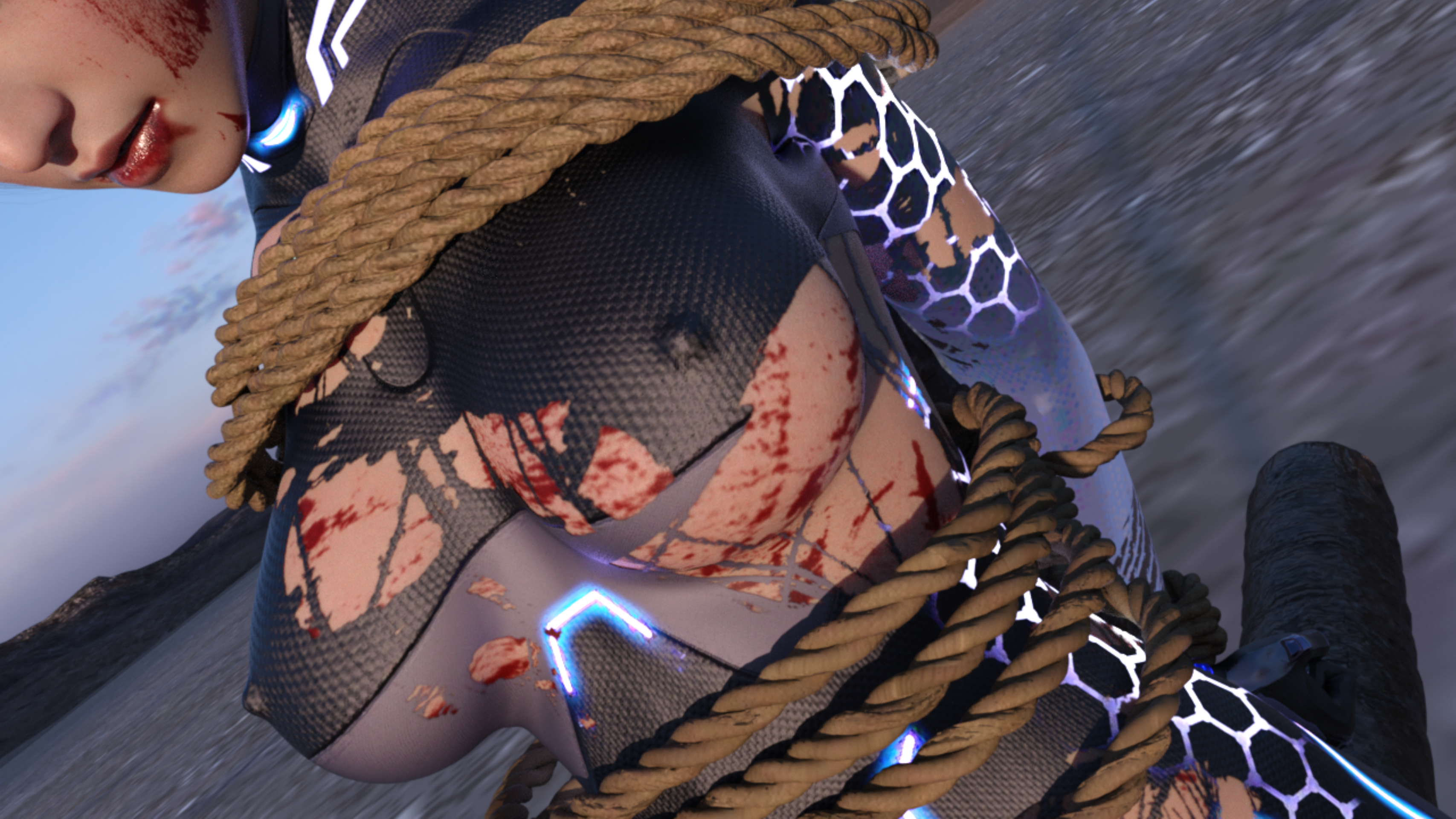
『大事な改造型アーティファクトを壊しやがって』  
娘は、念話で話しかけられた





『なんて、たいして怒ってないけどな』  
縛られ、揺らされ……





『あんたの悲鳴、評判よかったぜ』

「.....」

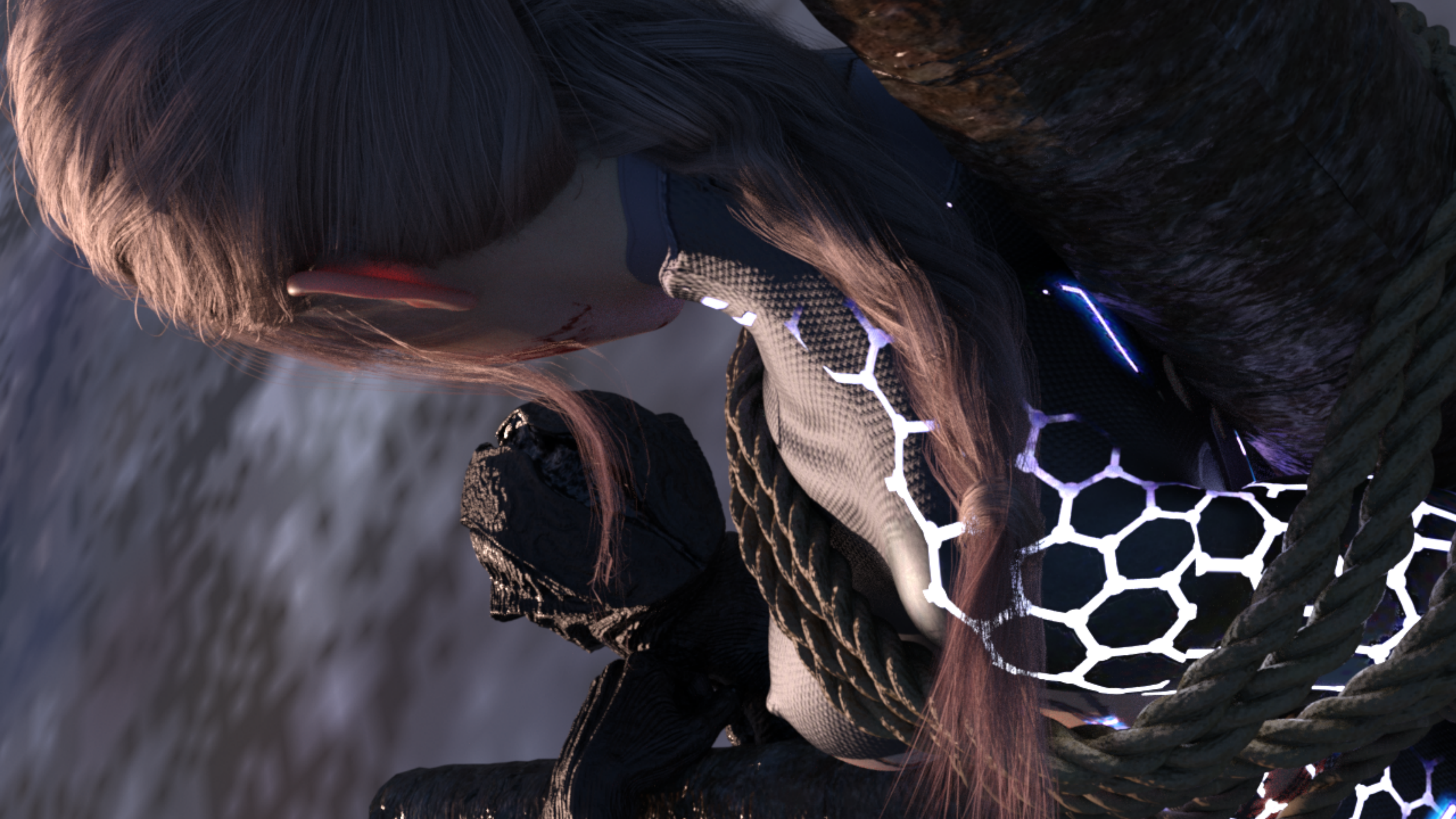
魔物に運ばれながら…





『あのお嬢さんには、本格的に手は出せねえんだよな』  
(！ やっぱり……)





『でもあんたは、別だ。くやしいか？ ひひひ。そこで降ろしな』  
魔物に新たな命令がくだされる……………

……………





「…………っ…………ん……………」

「お！ もう一人のお姫様のご到着だ」

…………長い時間の後…念話ではない、直接の声が、娘にかけられる





「……………んっ…………っ……」

「ちゃんと忠実に仕事をこなす、優秀な使い魔だろ？」

使い魔が歩くたびに、小さな悲鳴があふれ、胸が上下に揺れる





「……………んっ……ふっ……」

「大魔法使い様も、むごい遺産を残しやがる。痛いかったろ？　かわいい  
そうだから、揺らしすぎないようにな、ひひひ」





「みんなお嬢さんに手を出せなくてよ、ストレスがたまってたんだよ」  
「……ん…うっ……」





「もったいねえ。あの扱いじゃ、あっという間に死んじゃうぜ」  
「神代の戦士は、自動回復持ちなんだよ。これでも足りねえくらいだ」  
「そうか油断大敵…ってのは、口実だろ、ひひ」





「さあ、お嬢さんをご対面だ」  
使い魔は、新たな命令をくだされ……………

……………





「……………っ……」

「ほら、言いたい事があるんだろ」  
緑の神代の戦士は、吊るされた





「・・・・・・・・・・・・・・・・」

目の前にいる大魔法使いの娘が、目隠しをされているため……





「ほら、あんたが、こんな目にあっているのは、こいつのせいだぜ」  
無残な姿を知られていないのなら、と…





「…っ……そうね、聞こえる依頼人さん？ 同じように縛られているわ」  
必死で冷たい声を出し……悲鳴を我慢をする……  
（！！ 神代の戦士の声！？ ここに、いるの！？）





「あなたに、騙されたせいで……ね……」

大魔法使いの娘の身体が、ビクリと震える

(！ ……ああ…許して……彼女だけでも、解放して…誰か…)





「おい、泣き出したぜ？ さっきまで、気丈にふるまってたのによお」

「……………あ…っ……………」

「あの娘は、俺達に騙されたただけなんだ？ 許してやれよ」





(……よかった…拷問された形跡は…ないみたい……)

「父親からの連絡が本物だといいなあ。まあ、偽物でも、それはそれで  
……ひひひ」





（もし…彼女に…人質としての価値が無くなったら…動かなきゃ…彼女の身体が…心が…壊される前に……）

四章 完





【製作サークル名】

ざこきやら堂

[https://www.dlsite.com/maniia/circle/profile/=maker\\_id/RG48158.html](https://www.dlsite.com/maniia/circle/profile/=maker_id/RG48158.html)

2021年 冬発売